

ばんけい

教育ほんといちゅう

かわら版

こみち
教育の小径 No.202

2025 August

8月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

天上天下唯我独尊

天上の世界と天下の世界(宇宙空間)に我(自分)より尊いものはないという意味です。釈迦が生まれたときに唱えたとされる言葉です。

校内のリーダーをいかに育てるか

- 次の時代のリーダーを育てることは、学校を持続的に運営していくために求められる管理職の重要な役割です。
- 「ポストが人を育てる」といいます。校内の校務分掌組織を生かし、各種の主任には、全校的な立場から役割を果たすよう助言します。

今月の 8月29日

記念日 焼き肉の日

平成5年(1993年)に、夏バテ気味の人に焼き肉を食べて元気になってもらおうと、「全国焼肉協会」が制定しました。日付は「や(8)きに(2)く(9)」の語呂合わせです。

後継者を育てるということ

ある学校に美術に関心の高い先生がいました。その先生は隔年で行われる展示会の主任としてリーダーシップを発揮し、体育館の空間をひとつの作品に仕立て、素晴らしい展示会を開催していました。子どもが通っていない家庭の方も見学に来るほど、その立派さは地域に知れわたっていました。その先生が定期異動でほかの学校に転動しました。すると、見ごたえのある展示会が行われなくなったそうです。

このような事態になったのは、校内に次のリーダーである後継者が育っていなかったからではないでしょうか。展示会の企画や構成などすべてが主任にお任せになっていたのです。

どのような組織や団体においても、それが持続的に発展していくためには後継者が必要です。あとを継ぐ人がいなくなったら、その組織はやがて衰退していきます。後継者を育てることは今日あらゆる職種や分野で課題になっています。このことは学校においても例外ではありません。

学校が持続可能な組織として発展していくためには、いまの教育活動を充実させるだけでなく、将来を見据えて次の時代の学校を担うリーダーを育て

ることが重要です。ここに管理職の重要な役割があります。

新しい人材をほかの学校から呼び寄せることもできますが、できれば自校で育てるという気構えが必要です。

リーダーに求められる役割

各学校の校務分掌組織には、連絡・調整しながら教務事項をとりまとめる教務主任、子どもの生活面を指揮する生徒指導主任のほか、特別支援教育やICT教育、道徳教育、人権教育、食育、校内研修(研究)などにさまざまな主任が位置づいています。各学年や各教科等にも主任がいます。

学校の規模にもよりますが、主任のもとに数人の部員が配属され、チームで仕事をするようになっています。各主任が「名ばかりの主任」にならないように、次のような役割を果たすことが求められます。

1つは、分掌に与えられた職務をしっかりと果たすことです。その際、学校全体に目を配り、実態や課題を把握すること、課題解決に向けて、その方策を提案することが重要です。見いだした課題は当該の主任を育てるよき材料になります。教科主任や学年主任などは自分の学級だけでなく、ほかの学級の先生が指導上困っていることに適

切な支援や助言をします。

2つは、学校という組織の一員として、各分掌が活性化するよう努力することです。これはチームとして活動することです。組織的な取り組みをとおして後継者が育っていきます。

各種の主任がそれぞれに課せられている役割を果たすことで、学校が組織として機能します。学習や生活上の課題解決が図られ、充実した教育活動が展開できるようになります。

リーダーを育てるポイント

リーダーを育てるには「ポストを用意する」ことが大切だと、どのような組織においてもいわれます。一定の裁量と責任をもたせるからです。「ポストは人を育てる」というわけです。

「先生に期待して、この主任をお願いしました。先生の思うようにやってみてください。」といわれれば、やる気生まれます。責任を感じて取り組むようになります。人は上司が指示するだけでは育ちません。課題解決の方策を考えさせ、取り組んだ結果に対してよい点や努力の成果を認め達成感を味わわせます。次に、達成可能な新たな課題を提起させます。

リーダーを育てる基本は、子どもを育てる場合と同じです。

新学級 経営の基礎知識

教室内外の掲示板の活用

教室や廊下の掲示板にはさまざまな掲示物が掲示されています。掲示物は子どもたちの学習や生活に関わる重要な教育環境です。子どもたちは掲示物を見ながら、学校生活をよりよくしたり、新たなことを学んだりします。

教室に入ると、まず掲示物に目が止まります。教師が丁寧に朱書した子どもたちの作品や授業の様子を書き込んだ模造紙、授業で活用した資料などが掲示されていることもあります。

一方、掲示板に何も掲示されていないか、掲示物が剥がれていたりすることもあります。これらの状況から日ごろの学級経営の状況をかきま見ることができま

す。掲示物は次のようなさまざまな視点で分けられます。ほぼ年間を通じて掲示されるもの（教育目標や時間割表、地図や年表など）と短期間に取り替えられるもの（各月の目標や子どもの作品など）があります。これらは教師の指導に関するものと子どもの学習に関するものに分けることもできます。

子どもたちが作成した掲示物を見るとホッとすることがあります。教室内外の掲示板は、教師が教育的な意図をもって活用するだけでなく、子どもたちが創意を生かして自ら活用することも大切にします。子どもによる掲示板の活用は、子どもたちが学習環境を創ることであり、学級での生活をよりよくすることにつながります。

子どもは環境によって教育されるという原則を確認し、掲示の内容や位置や時期などを検討し、掲示板を計画的に活用します。子どもの個人情報などプライバシーや人権に関わることは十分配慮します。

教育の動向

日本経済団体連合会は今年2月18日に「2040年を見据えた教育改革～個人の主体性を活かし持続可能な未来を築く～」をとりまとめました。

報告では、求められる主要な教育改革として、①多様性・好奇心・探究力を中心に個を磨き育む初等中等教育への転換、②人口減少時代における高等教育機関の競争力強化、規模の適正化と基盤の強化、③あらゆる世代が学び続けられる「全世代型教育システム」の構築、④グローバル人材の育成の4点をあげています。

特に①では、「一律一斉型の教育から、多様性を重視し、コミュニケーション能力や好奇心、探究力を育てる

経済界からの教育提言

個を尊重した教育への転換を断行すべきである」とし、そのためには「全員が同じことを同じ方法で学ぶのではなく、エドテックの活用を通じて、各児童生徒の興味・関心や学習進度に適した課題・教材を提供し、一人ひとりに最適な学びを提供できる環境を整備する必要がある」としています。

学習指導要領の改訂に関しては「単元ごとのポイントを示したシンプルなものにあらため、子どもたちの興味・関心に合わせた学習を行えるよう、教員が判断できる裁量の幅を拡大すべきである」としています。

本報告は、日本経済団体連合会のホームページで検索できます。

連載 先人の残した言葉 22

ジョン・ロック

子供たちの予期しない質問から教えられるところが多い

ジョン・ロックは、イギリスが近代化に向かっていた激動する時代に活躍した哲学者で、経験論哲学の祖とされています。ロックはそれまでの世間の常識や権威にもとづく因習的、伝統的な学校を否定し、人間は生まれつき「白紙」のようなものであると主張しました。例えば知識は先天的にすでにあるものではなく、経験から得られるものであると考えていました。

先の言葉は、著書『教育に関する考察』のなかに登場します。確かに子どもは教師や大人が考えもしない、また予想していない疑問や質問を発するものです。それらに教師はハッとさせられ教えられることもあります。

子どもは本来、どうしてだろうか、どうなっているのだろうかといったさまざまな疑問を

もっています。もっと知りたい、詳しく理解したいという知的な好奇心や知識欲があります。それらのなかには、物事の本質をついたものや、従来の固定観念を否定するものもあります。新しいものを生み出すアイデアにつながるものもあります。

日々の授業で子どもたちから予期しない質問が出されることがあります。それらに対処していると、授業が横道に逸れたり停滞したりすることがあります。しかし、そのような場面こそ子どもたちが学びに興味や関心を持ち、思考を働かせている場面です。子どもたちの疑問を大切に、それらにどう向き合うか。教師としての真価が問われます。丁寧に説明して終わりにせずに、疑問を生かしながら、子どもの思考や理解を深めさせたいものです。

INFORMATION

ご注文は文溪堂代理店まで

てのひら文庫

文部科学省
後援

9/19
締切必着

「てのひら文庫賞」読書感想文 全国コンクール 作品募集!

子どもたちの小さなてのひらに載せられ、あたためられ、随所に持ち運ばれ、そして、くい入るように読破してもらいたい—そんな願いがこめられた読書教材です。

- 総監修/児童文学作家 石森 延男
- A5判 16~28ページ 4色・1色
- 1~6年 各12冊
- 学校納入定価 1冊200円(税込)



「教育の小徑」のすべてのバックナンバーを文溪堂ホームページからお読みいただけます。

お知り合いの先生にもお勧めください。



ぶんけい 教育の小徑 検索

編集後記

研究発表等で学校にお邪魔した際に、掲示物に目を留めることがしばしばあります。習字にしろ絵にしろ工作にしろ、技術の巧拙はあれど、どの作品にも個性がにじみ出ており、誰ひとり同じ子どもはいないんだなあということを、つくづく感じます。(H記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2025年8月1日